

委員会報告

■ 技術委員会（楠田哲也委員長）

会員相互や海外との非開削技術情報交流を促進するため、非開削技術講演会、非開削技術研究発表会、非開削現場見学会の開催を審議している。本年度で非開削技術講演会は24回、非開削技術研究発表会は28回を数え会員間の情報交換の場を提供している。新たな取り組みとして非開削技術用語辞典の作成や当協会の資格認定制度の創設等について検討することとした。

■ 企画委員会（石川和秀委員長）

平成25年12月に「企画運営委員会」及び「広報委員会」を統合し「企画委員会」を設置した。委員会の審議事項は、①理事会・総会に付議する重要事項の事前審議、提案②円滑で効果的な協会運営に関する事項の審議、提案などを行うこととした。

平成26年度には、JSTTの存在意義や新たな価値の創造などについて論議を重ね、費用の効率的な仕様の観点から機関誌「No-Dig Today」の謹呈先の見直しや海外との非開削技術情報のタイムリーな交流を促進するよう編集委員会に提案した。

■ ソーシャルコスト検討委員会（宮武昌志委員長）

地下パイプラインを開削工事によって実施する場合は、直接工事費のほかに社会的に交通渋滞による地域への迷惑や騒音対策、ガソリン使用料の増大によるCO₂問題など通常では算定できないものがあると考えられている。そこで委員会としては、交通シミュレーションソフトを使い、その実態を解明しようとするモデルシステム構築の手引書を作成した。

■ 地下探査委員会（斉藤秀樹委員長）

地中レーダ等を使用して地下の埋設物等の調査に関する手引き、マニュアル等がないことからその調査方法、機器の使用法、成果品の報告書式など委員会で論議し、手引書を作成する必要性が高いことから平成22年3月の理事会で設置が承認された。以降委員会を開催し平成28年3月に「非開削地下探査の手引き(案)」を発行するに至った。

■ HDD工法委員会（伊藤靖委員長）

HDD工法の普及・展開を図るためその基本設計要領、積算要領等を定め標準化を実施している。平成28年度には第2版を発行した。また、工法のより良い理解を促進するため講習会を全国各地で実施。実施都市は札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、横浜市、東京都、名古屋市で実施。今後関西地方を中心に実施予定。

■ 工法ナビゲーション運営委員会（堀地紀行委員長）

非開削技術や工法について、土質条件等の設計条件を入力することにより、施工可能な工法を選び出すことができるシステムの運営をする委員会で、平成21年に他社から引き継ぎ当協会運営している。一昨年から検索の分かり易さ、体系化の整理、スピード化といった視点からシステムを見直すりニューアルを実施。現在111工法掲載、ユーザーは56協会に及んでいる。また、システムへのアクセス数は800件/日を超えている。今までの最高は平成28年9月の約1,300件/日である。

■ 機関誌編集委員会（石川和秀委員長）

季刊に発行している当協会の機関誌「No-Dig Today」の企画や掲載内容等について審議し、会員への非開削技術のタイムリーな情報提供と非開削業界の進化・発展に寄与することを目標に取り組んでいる。具体的には土木系高専・大学の送呈拡大や100号を一つの節目として新たな価値創造を目指すためモニターに取組み掲載内容を検討した。

■ 編集企画小委員会（黒岩正信委員長）

機関誌「No-Dig Today」の定期発行に向けた進捗管理や執筆者の選定・調整など誌面製作を側面から支援するとともに自ら執筆者として誌面作りに直接関わっている。特に100号の企画に当たっては100号編集企画特別委員会とタイアップし検討を進めた。